

繪首
入書

世界都路

亞細亞
二

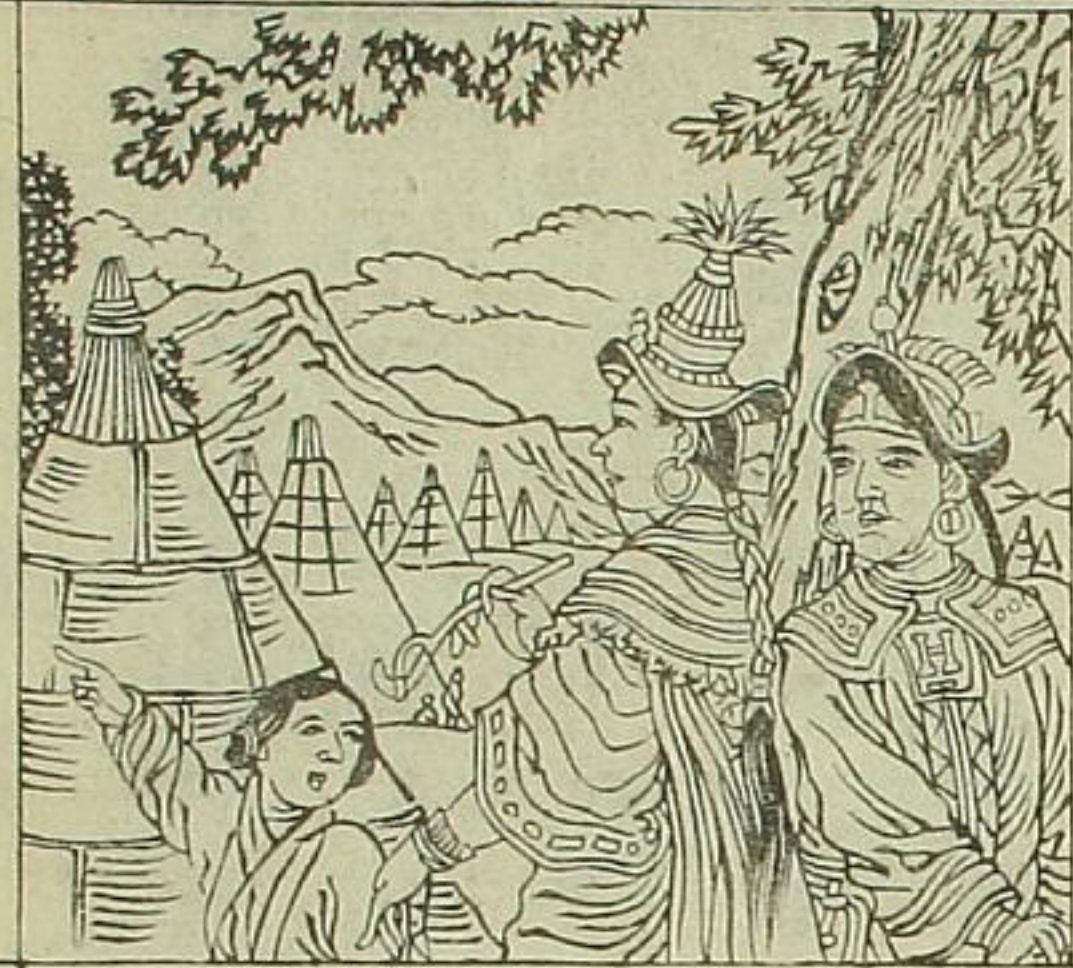
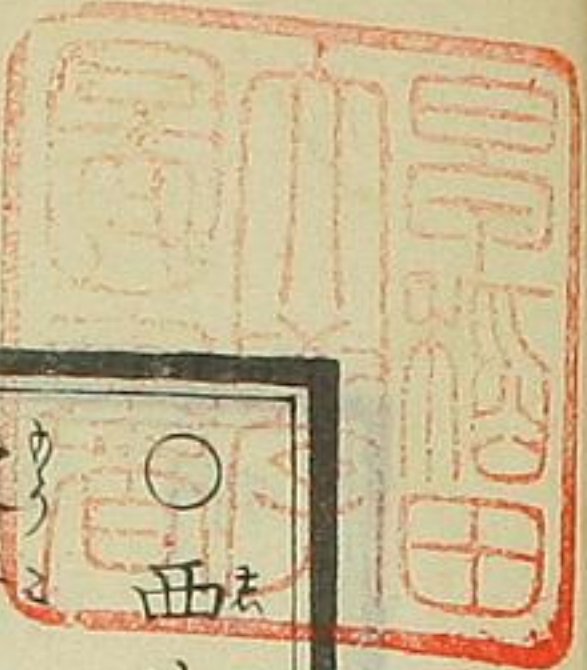
柳田文庫

文庫11

A1838

2





○西比利亜の往古
 蒙古の種属各地
 割居る土地の侯伯
 久しく其領分を侵
 さるるが支那元の

古史略

卷二

〇〇一
 五

亞細亞之續
 西比利亜より亞細亞
 北部を押鹿く集
 め稱する總名の境に
 限るる悉く魯西亞



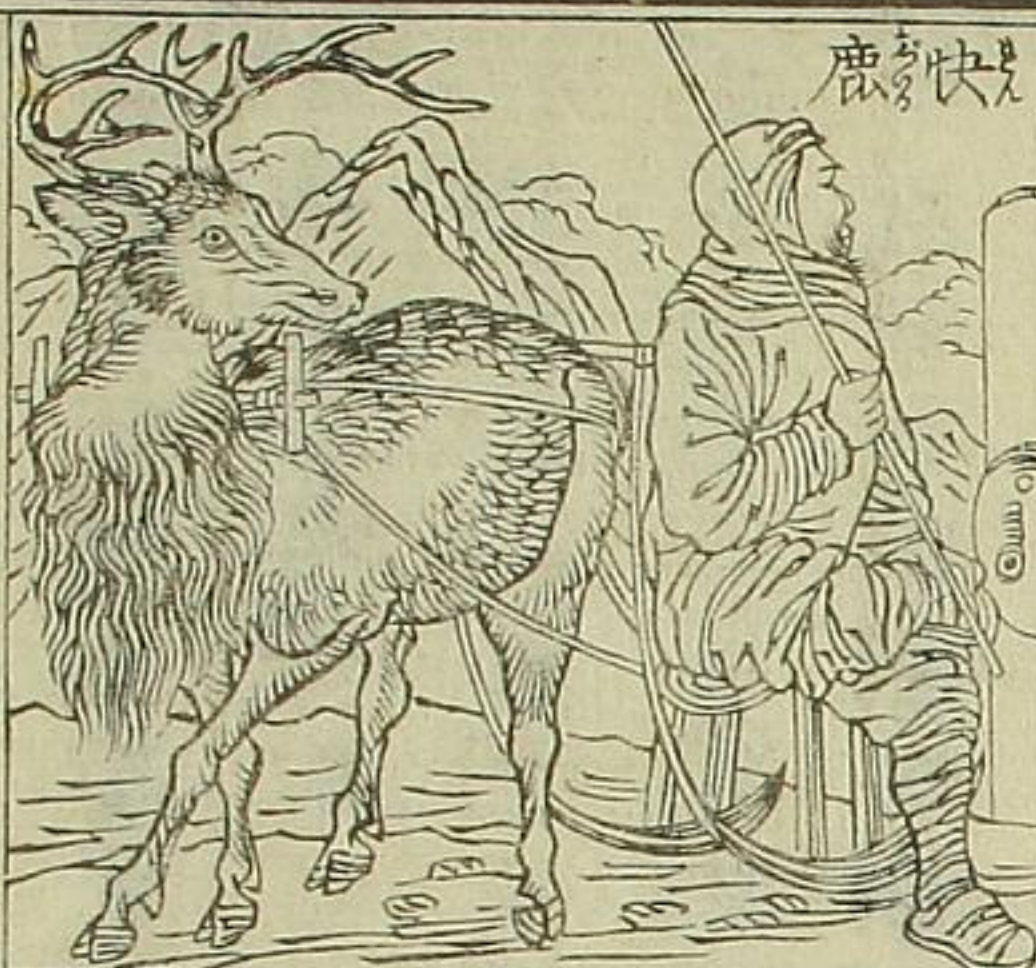
文庫 11
 A 1838
 2



48-7746

代小至りて太祖の
 子求亦の併吞する
 所とあり二百五十
 餘年其支配を受た
 り一が百五十年
 前より全國魯西
 の領分小歸たり
 其始め魯西本部
 より流罪人を遷
 所ありし魯人

り属する大地なる字。
 西より烏拉の山脉綫。
 隔て隣る歐羅巴。
 魯の本國を連りて。
 北より北極海迄南



鹿快
 の子孫の間あり
 東部の地多く獸類
 と産し土人レンジ
 ールと号け鹿の
 種類小て角甚ど大

る裏海土身其斯
 坦蒙古に界し東南
 大。海州海と日の本に。
 海小對し堪察加。
 半嶋より又を

世界都路

卷二

〇五

ひかるを扱一轟車
 と牽きめ使役する
 と常と此府中
 魯西帝より軍用
 の為毛織製造の場
 所を建て金銀の鑄
 造所を建て西
 比利亞德波爾斯科
 といへる都府の
 革及び種々の製造

古利宿のり跨る
 墨士領峽を色く令
 亞米利加洲を達す
 たる長さ一千五百余
 里南北七百三十里

所あり

西北利亞東西府

○德波爾斯科

西部の惣称あり

て府名を同ト

くは但し西部中

の首府あり一五

二千寺院

○多木斯科

德波爾斯科より

面積の九十万五千六百
 方里あり大略支那の
 領分より勝る方らば
 歐洲の全地より大
 むる尚そ北半を

古界部各

卷二

義爾古德斯科不
達る中間の都
府あり兵學校あ
り貿易繁盛人口
一万余人
○義爾古德斯科
此地ハ東府ハ属
一羽名府名又同
ト東西部の首
府ハ一て全国中

魚。一。さきでも人口
纒。二。百八十万餘。
全地。不。平均。算。され。
一。里。一。三個。を。充。た
の。魚。人。三。分の。二。不



寂も繁昌の地か
り入口一万余千
寺院三十三

とぎん土人の多く漁
業を業とし
角長き。麻を牧
雪路あり。花車を
牽せつそ。肉を食

○亞古德斯科

國內貿易第一の

場所あり東西兩

部の中央に在り

○荷哥總斯科

北蝦夷と堪察加

の間の海灣に在

り

○尼歌拉斯科府

黒龍河アルムの口

ひそく皮を剥衣

小代る者もあり僻遠

地方は又彼に部は

をわく冬月を土を

穿ちて穴籠りて并

小あり近來建た

る府小して貿易

未繁盛小至らむ

と虫魯國東海の

要地と也

○彼得羅波爾斯科

堪察加島の都府

小して東岸小あ

り魯西亞東海兵

備の要地小して

化小を造り愚ある性小

野を著きり地勢

東南小い言ふ山峻嶺

列々。それ間小を

豊ある田畑の饒最

炮臺屯兵あり
 西部の西南裏海スカ
 シヤン及び亞拉湖
 の近傍の一般小廣
 漠の原野にして樹
 木を生せむ川流と
 少く耕作をべから
 ざるの地多し之を
 キルシスの沙漠と
 名づく土人游牧と

多し。又中央より西
 へ。さしに廣死
 砂原の千里をふ
 跨り。限りなく。ぬ
 散る。流き。鳥。海。河



業として各部の首
 長之を領して。ホ
 魯西亜政府の支配

英。屋。塞。河。勒。拿。の。大
 河。南。より。北。冰。海。へ
 首。注。ぎ。そ。の。山。後。に
 大。雪。ふ。本。樵。の。跡。を
 埋。め。ぬ。け。む。積。雪。を。覆。ふ

受ざる者あり其
 中或ハ盗賊を業
 として旅人を劫掠
 或ハ勾引して之を
 賣奴とあり近隣ハ
 驚く者あり
 ○印度ハ大別
 して東西二部ハ分つ
 又全地を二部ハ別
 して前印度後印度

小迷ふは舟之小反
 夏の日甚暑く烈
 経維一東西
 區別義爾古德斯
 科德波尔斯科



とき即ち支那ハ隣
 りて東部の海中ハ
 突出たる地方を後

おおト名は首府
 衛王兵士を冲津
 白波風をを防備
 知事より未解多
 本斯科亞古德斯科

印度と号し西部の大陸と前印度又天竺と号く

後印度各国

○安南 全国二万三千五百方里入口六百万

首府フエ 人口五百万

○暹羅 全国三万六千九百四十方里

全 人口三百余万内 十一支那人

○老撾 全国二万二千方里 人口五百万

尼歌拉那科の佐府
を以て。東の端不堪
嘉和都府の彼得羅
波爾科科魯國兵備
の要地とく。其壘塲炮

南部馬刺加英領
首府新嘉坡

○緬甸 内地四万四千六百方里 人口八百万



兵急に冠不解受
目々布さるる

亞細亞の南部印度

地を前後ふ別つ炎

熱の腴膏濃く汗ひ

首府マシダレ

○英領緬甸ビルマ

首府刺郡

○前印度 表面二十三万 二千二百方里

人口 一億七千八百六十 三万余

全地大略英國の管

轄ふして全く其領

地と称する者十四

万零六百十五方里

余あり

五穀をふ草木

皆とてよ生育ち

産物多き土地ありて

おも世るか石も高き

喜馬拉山の脈を履ひ

前印度の地方の地
勢小從ひ之を三箇
小區別は北部の地
方と山地マウンテン
と稱し其二喜馬拉
の山脚より南の方
中央の平原と元來
の温都斯坦と云ふ
其三南部の中間に
在る高さ地面と徳

大不江河源をなす
發して幾流を南に
傍ひて海に入る。それ
数許多ありともや。
二部の一分は後印度

干と名づく
 英國の領地ハ州縣
 と分ちて皆副鎮臺
 と置て之を支配せ
 し其總督ハ甲谷
 他府ハ在て許多の
 議員と俱ハ全国の
 政務を議定たり
 温德斯坦の地方ハ
 往時より久しく莫

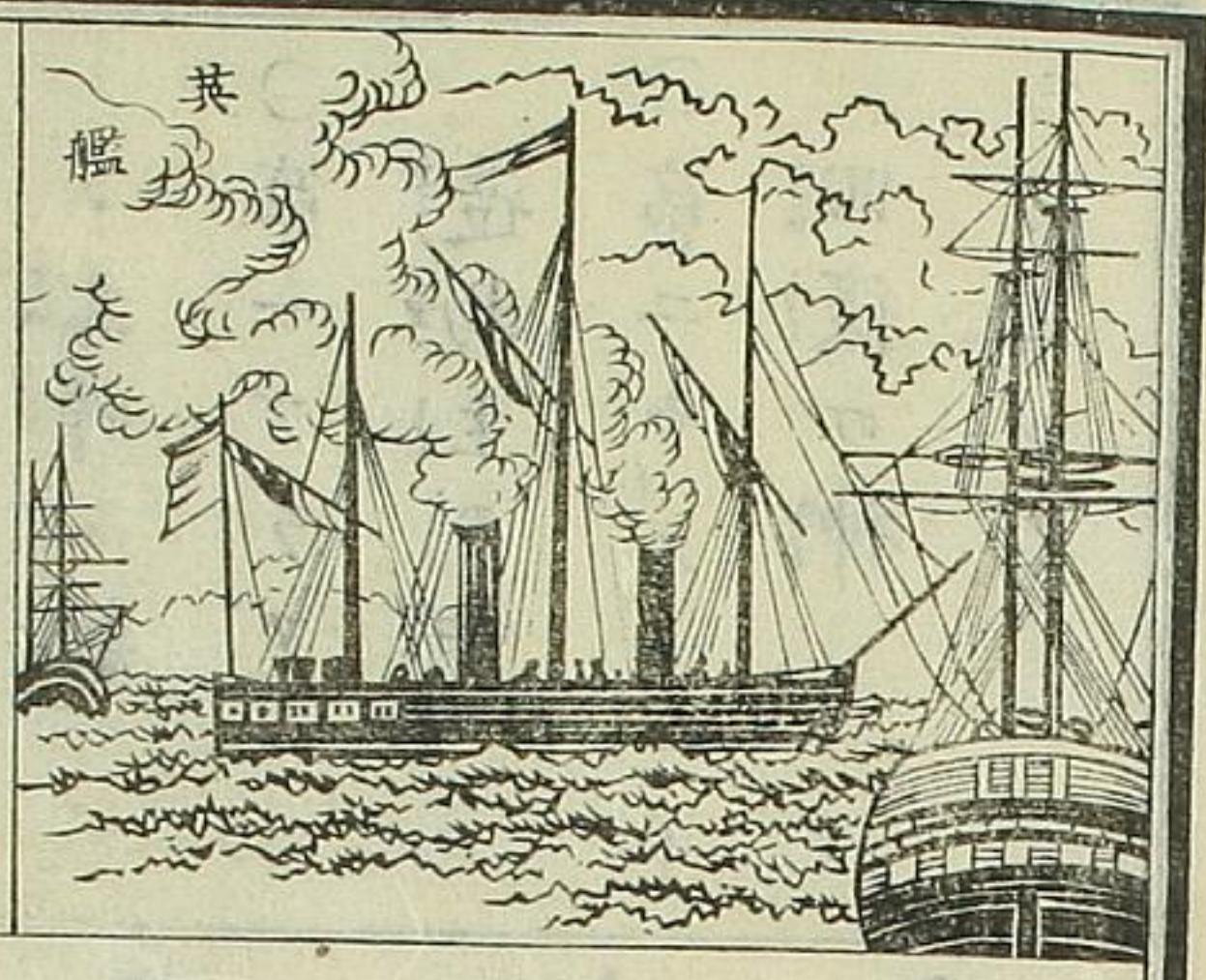
小獨立國の卷れあり。
 安南一名交趾とて。
 支那と云近き小隣り。
 北を東京南方を。
 本藩寨と号けたり。

卧爾王の所領ハ
 て歴代都せし處ハ
 り一が後漸く衰
 へて六十餘年前ハ
 至り部下分裂し馬
 刺他の酋長獨立し
 て王と稱せより莫
 卧ハの勢以縮して
 振ハぬ馬刺他の又
 近世数々英國と兵

徳を孤るるに隣あり。
 文華の國ハ交ハれ。
 朱氏の皇子ハ道ヲ。
 凡何支那の往古を。
 移く滅する官人々。

と構くまト終はつ小敗績せうたいしんと
 現いま今いまの其その版圖はんず大略たいりやく
 英いん国こく小歸せうきせり国民こくたみ
 又また莫もく卧わの舊領きうりやうと
 回わい復ふくさんさんと名なと一いつ
 と乱らんと起おこと事ことと数かず
 次つぎあり一いつが千八百
 五十七年ごしちしちねん土兵どへい大おほひ
 小蜂せうほう起おこ一いつと英いんと戦せん
 ふこと凡たゞ二年にふた小及せう

水みづををむるむる凡たゞ月のづかののあ
 めをめを賊あつかひのの巧たくまよりそ
 人ひと材ざいをを奉たてまつるる試あやとあよ
 小せうより文ぶんの林りん小せうか入いつつ盤ばん
 をを河かつめ雪ゆきをを積つみるるを



英いん艦かん
 比ひ故こ莫もく卧わの王わうの都と
 城じやう轟こう離り府ふの之のが為ため
 小せう陥かんりたり
 印いん度ど諸しよ教きやう

日ひ小せう次つぎく島しまの臨あみみ子こび
 の定さだ小せう他た事じももあ
 王わう城じやう府ふ衛ゑいの宮きやう殿てんの伽が
 藍らん小せう綿めん小せう造ぞうりありあり南なん小せう
 沃わく野やつつああるる潤めい滄さん

○婆羅門教マブラ

此教宗釋迦の仏

教先ツ千餘年

前より盛小行

る主神三射

○第一ブラマ

造物主の神

○第二ウイスニユイ

回復の神

○第三シツ

大河の枝川に沿て昌

氣昆府是佛の東西の

属地ありて大河先街の

船泊り舵を執るる港

あり又河上の暹羅島

破滅の邪神

此他附属の神仏数

と知らむ國民空理

と信ト彼神仏を崇

尊の餘り其身体と

痛め或ハ命を斬或

ハ我子を犠牲と

現世未來の冥福と

禱る者あり近來英

国政府より告令と

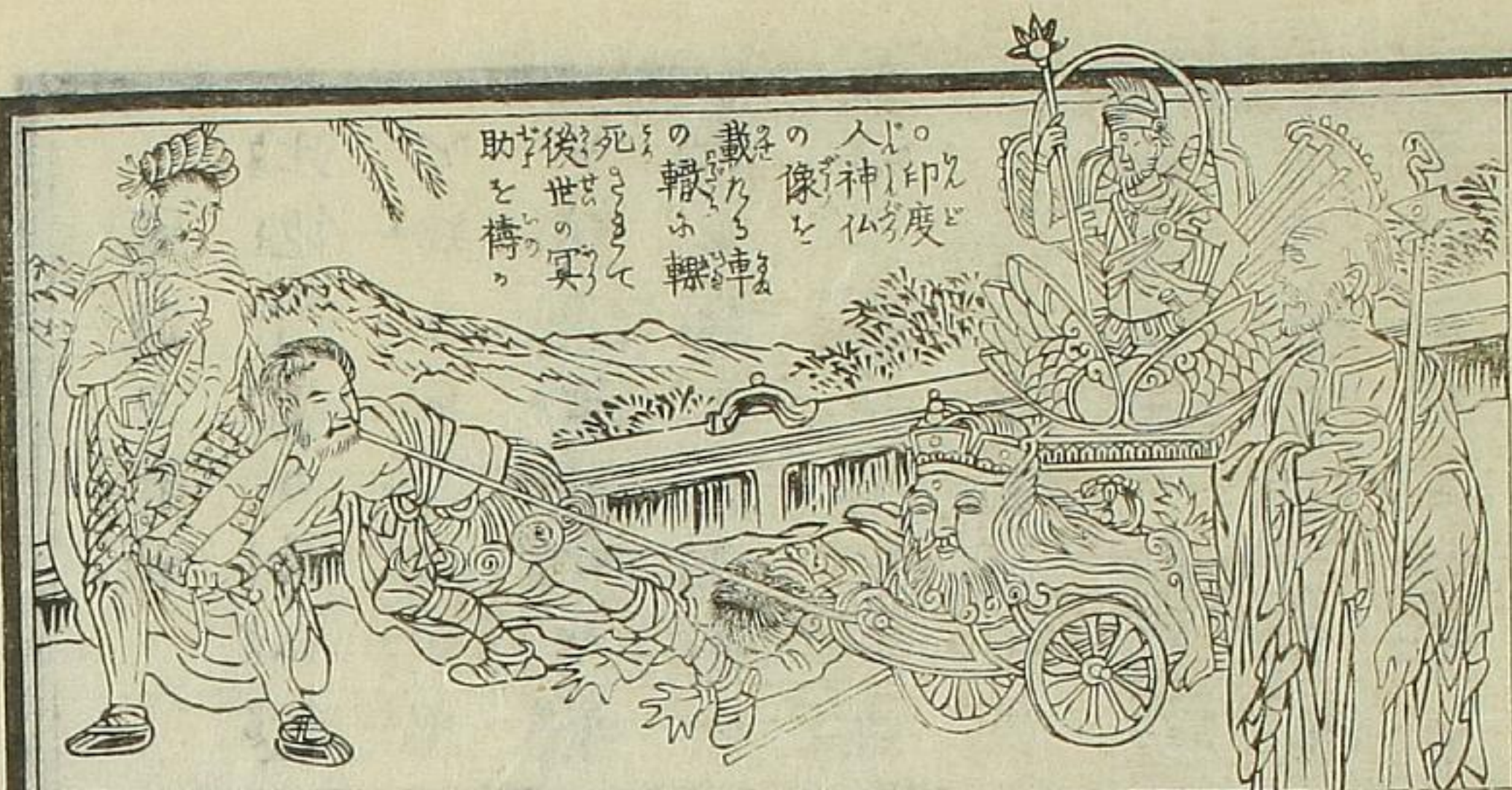
湄南河ある口之小島

都の曼谷港の水は

深く大洋船を始と

了。赤道地下の智

とそ岸より水は張



以。家。居。を。風。の。吹。ぬ。ま。
や。人。を。右。に。は。肩。肌。を。
從。て。移。す。も。足。是。を。り。
風。似。卑。く。暖。く。も。
前。を。移。し。て。剃。落。す。

出。一。是。等。の。舊。弊。を
禁。む。と。虫。固。陋。小。滌
り。て。之。を。改。む。こ
と。と。欲。せ。む。嘆。む。べ
○ 釋。迦。佛。教
後。印。度。地。方。及。び
支。那。西。藏。日。本。小
至。り。前。印。度。の。僅
小。錫。蘭。嶋。小。盛。ん

後。嬰。の。あ。お。り。し。世
地。に。象。の。印。度。中。殊。ふ
稀。ふ。る。者。あ。く。形。ら
大。ま。く。骨。太。く。諸。物
の。運。び。致。し。用。ひ。く

ある而已却て本
地小行をせ

○回教
マホメット宗
人民四種

○第一 婆羅門 僧侶

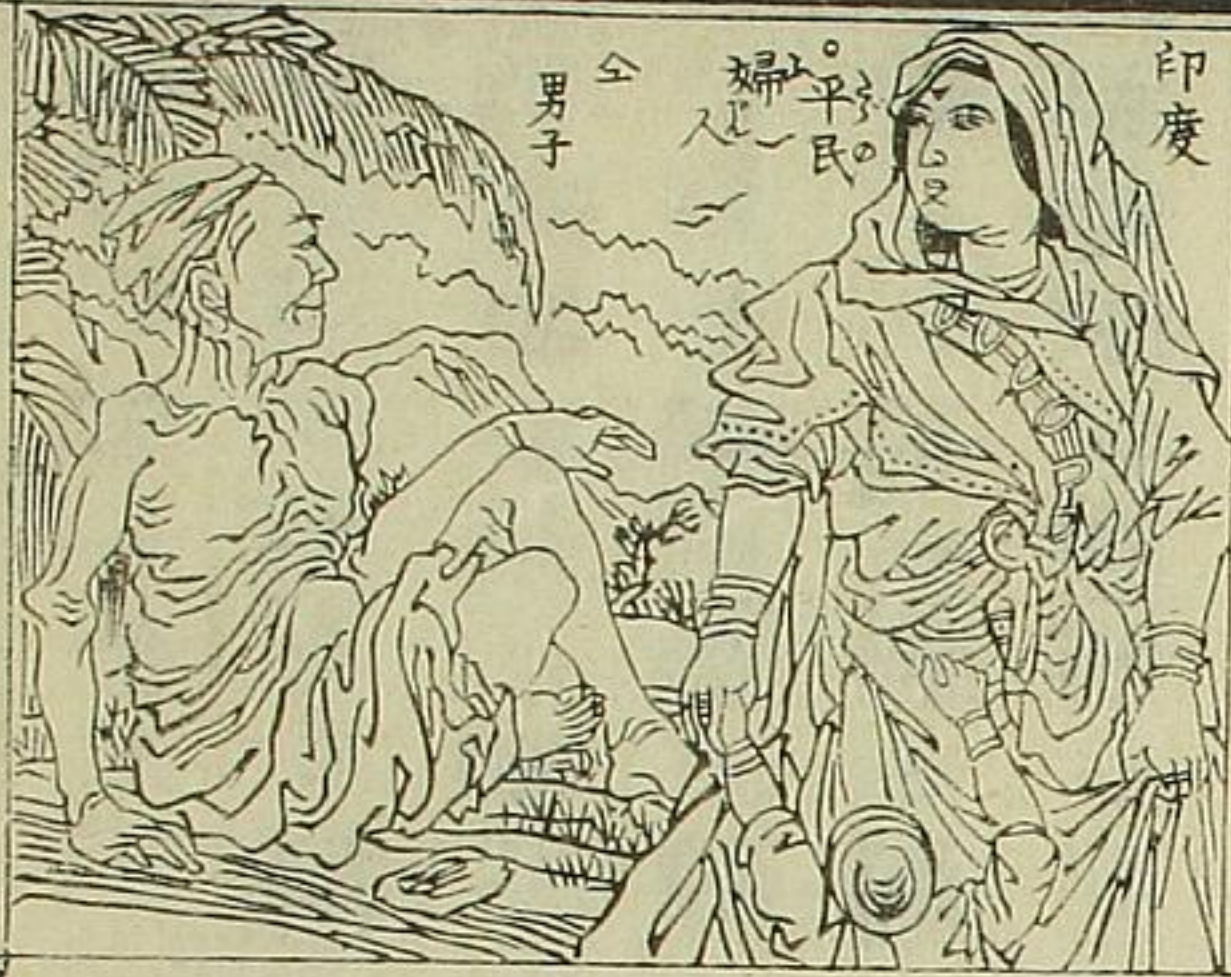
○第二 刹帝利 武家

○第三 吠舍 良民

○第四 戌達羅 農民

四種の中一二を貴
重三四と卑賤と

便利多しとぞ。此も道
以歐西の教化を以て
交り親しく政事
稍又向ふを以り及の
境の先極小内地行



互ひ小相嫁娶こと
を得若此區別と
犯す時ハ厳き刑中
處せらる且貴族ハ

の部族あり。主人の首
長を愛せしむるを以て
順する。此申ふ南邦
を暹羅小の部の緬甸
を國民の併化す

平人と交るあり
 印度人の古より数
 々他国の為小侵さ
 是其支配を受て服
 従ふと自古來の教
 法風俗を固守こと
 驚き故小之と變
 革する無きと約し
 而る後其管轄を歸
 せると常とせ此地

殊き是は秋體の申ふ
 點星は飾を健と
 才の榮ふとる花う
 てた安たる南の方此
 馬刺承と英吉利領の

上古より人民繁殖
 一世界中最も早く
 開けし地あり然共
 其地数多の邦国を
 區別て各自立し兵
 力と合しと戦ふ能
 く故小統一の大
 国と為せし非む
 其後回教の宗徒兵
 勢を振ひ西部次第

開拓地海より
 出角島の新嘉坡
 の首府こそは貿易
 要港あり緬甸を
 猛き國拓と四隣り

古史

卷二

小其侵略と被り終
 小徳干と畧して国
 を建て其政令兇暴
 を極めて戦ひ絶ど
 後又蒙古小侵略さ
 是就中四百七十六
 年前韃靼地方より
 帖木兒大兵を卒し
 て攻入り首府聶離
 を陥入と居民十万人

振ふ勢ひも英吉利
 國と拵うきそ今
 三分の二を保ち伊犁
 角地河乃傍ある曼
 陀禮府のそは外也



印度
主度ノ
王度ノ

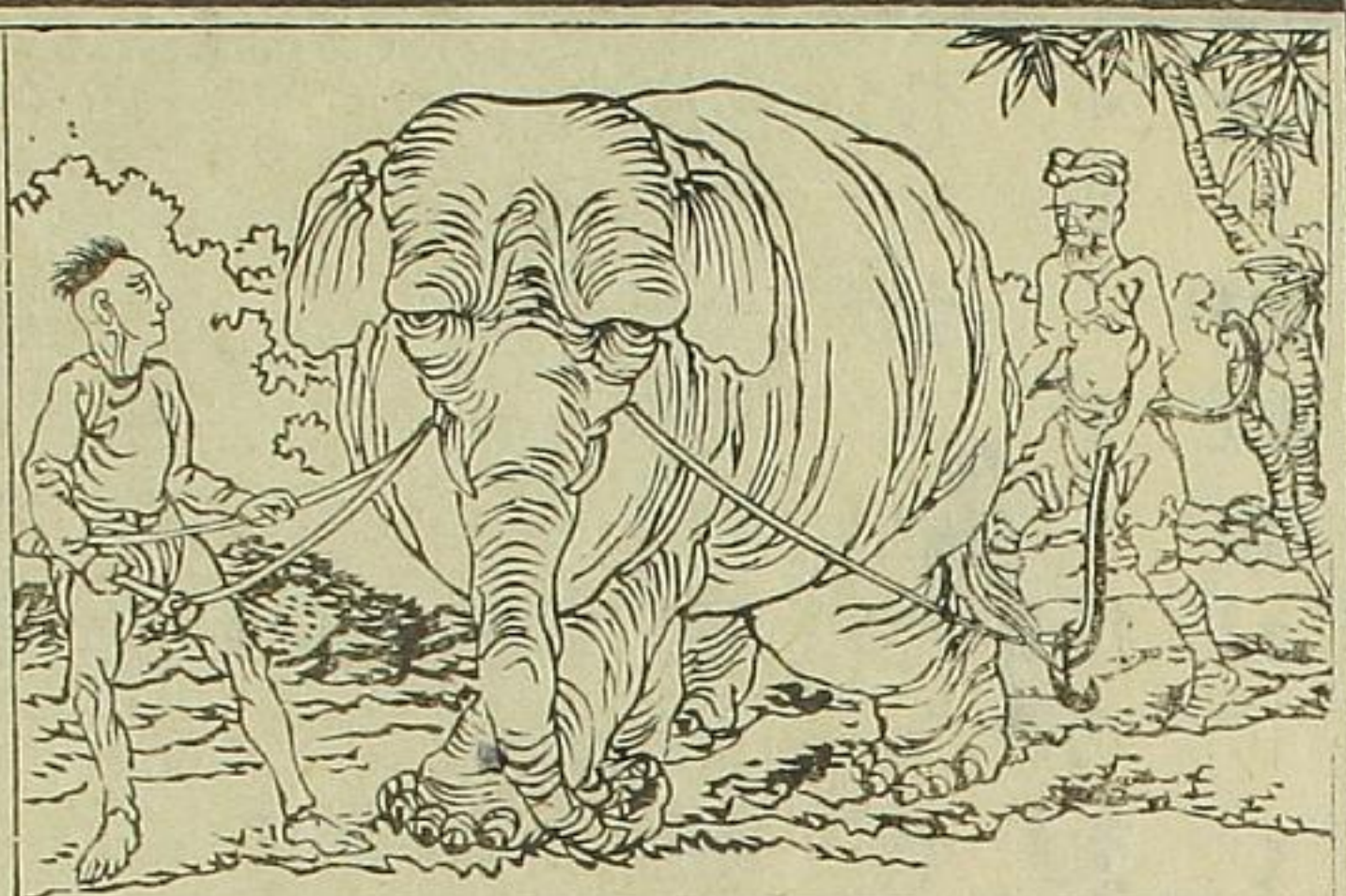
を慶殺めせしと云
 帖木兒其本都に還
 りし後百年の間
 小く安きを得た
 ら小復三百四拾七
 年前帖木兒の親屬

鄙のそ多く風俗は
 純く純き心より割き
 て与了英領の孟加
 拉灣小元を傍ひと
 阿喇喀皮求手形勢

古
 界
 諸
 路
 卷
 二

一、プル王韃靼地
 方より起り大兵を
 將おて前印度の攻
 入る再びデルハイ
 府を陥れ都城を此
 地より定め終り国内
 を併呑し其嗣子に
 ユマジコ王温都
 斯坦の全地を略し
 大莫卧亦国を立り

倫中リウチュウ小大府コオホフの刺郡シケン
 高堂カウカウ好コウき港カウあり。
 海カイの岸カシ小安陀コアンダ曼マン仁ニ
 古コ把バ雷ライ寺シのコ小コ路ロあり。
 是コレをウ限ギりの境サカイとす。



今イマと去キル二百六十
 八年前ハチマサキあり其嗣子キコトコ
 天テンアクバル王オウ兵ヘイ力リキ

其印シイン度ド地チの北キタの方カタ喜ヒメ
 馬バ拉ラ山サンのコ岸カシ法ホウ比ヒきコ亞ア拉ラ
 比ヒ亞ア海カイをコ曲マク小安コアン又マタ東トウ亞ア孟マン
 加カ拉ラ海カイ湾ワンと号カウする全ゼン
 地チ大ダイ胆タン英エイ吉キチ利リ國クニの支シ

強盛にして巨大小
版圖を擧め次々教
代の國王皆権力を
擅ふに就中「ラニ
セツ」王の如き徳
干を併呑し印度の
全部大畧を歸し奢
侈を極め悪行を擅
ふせしより後内亂
起り州郡獨立し

配少くその領分を稱
するも孟加拉にけく
西小州「馮徐部」島納
中央州「孟買」馬塔喇
散す。但比ふは鎮座

其王政小属を此時
小當り比耳西亞の
兵大擧して国内を
掠め十六億六十六
百万弗の貨物を奪
ひ去しこと有り首
府「アルハイ」亦教
々「亞加業坦」の爲小
陥らば國勢益衰弱
莫卧尔王助と英國

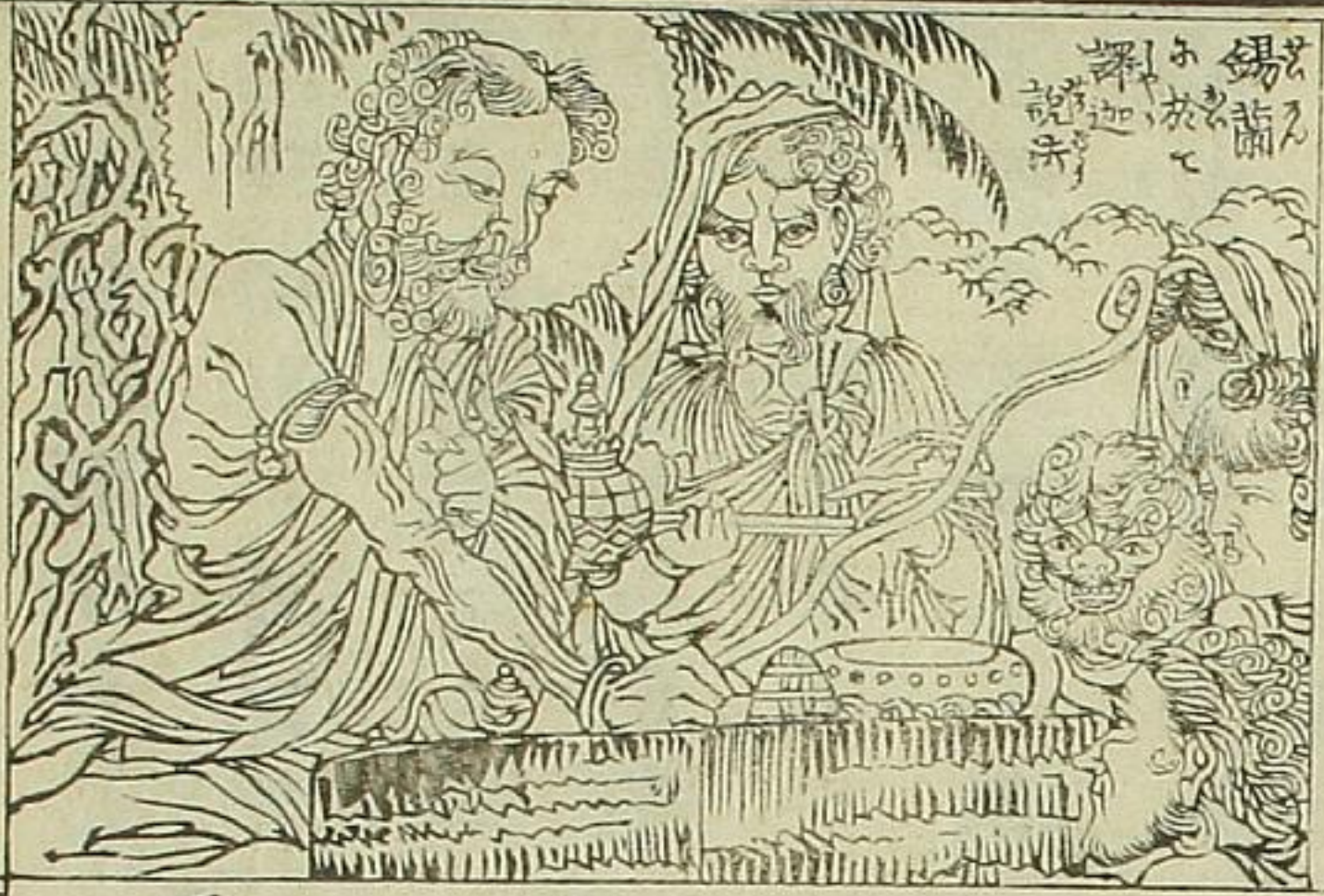
の總督首府「甲谷他」
そは外「尼葉克什米爾」
「尼泊尔」不丹諸國あり。
小あり者「教志」び者
獨立頭領の處しき名

古史新略

卷二

小乞ひて終小其危
 難と危を終よ国と
 英国よ委せて其資
 給と受今小於てい
 空しく虚名の王号
 と称する而已
 ○比耳西亞又伊蘭
 と名く地方表面七
 万五千五百六十方
 里小して人口大凡

のしある甲斐ありあ
 る。公英より備法せり。此
 地の古蹟最難く西
 州と統御部の界あり
 くるその昔莫爾爾王



千二三百方あり気
 候の地方小因て大
 以小異り裡海カス

の都せし名なきは地
 も衰へて兵火の為り
 焼ける宮殿及び國王
 の墓の印も見えぬれ
 雲小塔身之と照る

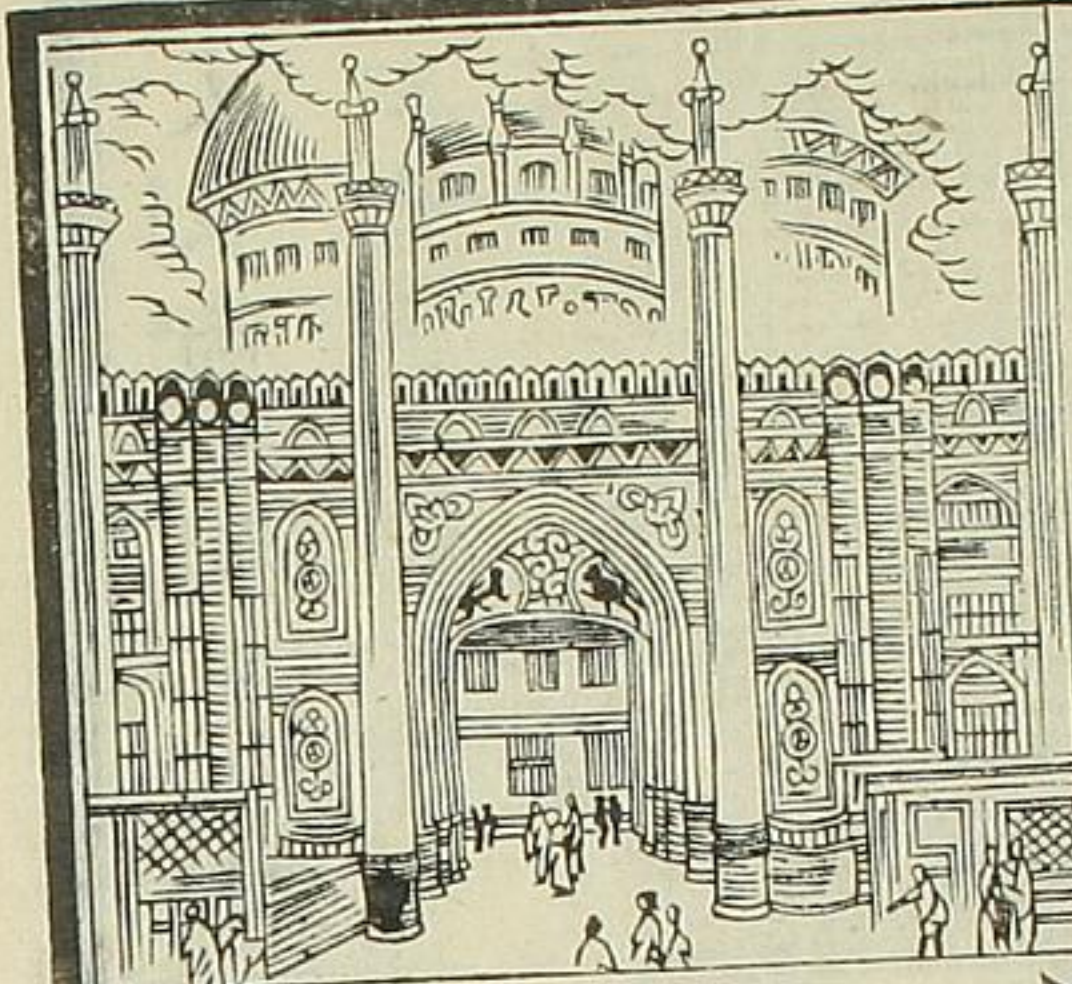
の西南ハ寒冷小
て中央より南方の
地の暑氣堪た
此地の空氣ハ清淨
小して且乾燥あ
か故ハ人死ても其
屍敢て腐敗ことか
産物藥草珠繒帛
金銀線の織物等ハ
此国の名産小して

日影醫者眇めあり
毛鹿印友地ハ神教り
浮屠家の揺りを事と
く。生理ハ熱小國
氏の信むる教教を有る。

又良馬と産む殊
小他邦ハ勝り國人
多クハ騎馬の術小
長也
国王と尊稱して沙
と云ふ其下ハ大ビ
シールと号する高
官あり軍事及以外
国交際等の諸務を
管領も往時ハ其版

中ハ五列ハ錫を有る
釋迦徒の空也を
浮屠の教を有る信の源
きふ溺き人心の知覺
を乞く耶也

圖盛大ありて災
世の争乱小国勢衰
へて各地獨立国と
ありて其支配小歸
せも政令の君主專



比耳社の名をきき古
あり。印度境を西の
方地好南の海をより。
一般修く中央より次
にさく連りて沙原

治小して各州皆国
王の親屬を以て鎮
臺とせ然もども其
政令公平あらば官
吏恣に、小私利を
營者多し
人種ハ土人の外都
魯機蒙古韃靼亞
美尼亞及び亞拉比
亞人等の子孫也

恙世産く見涉
は果り友のそむ西時
暑の去やまど。椰櫚
椰のそむ他を。椰木を
るの流あく人の性

古史部各

卷二



多りの數種と混
して純一あらむ人
品ハ氣格高く風俗

来も稀あれど山々
裏海の傍より西部へ
うけて山の連り真り
谿間の草木好ありそ
典と鏡の土地柄多そ

土耳其小似て一般
小回教を奉ぜ故小
一男數婦を娶ると
常とて国民一般小
禮式を重んじ應對
射裁を飾ること他
国小稀あり然れど
も亦固陋ありて残
忍の風習を脱せむ
且華美を好む衣服

國民の耕作業に巧み
皇九あり分つ王國あり
威權よりおとろへそ
獨立國もありとら也首
府第希茶葉の王城あり

の如きハ男女共金銀珠玉を鏤め裝飾
こと甚し殊小國王
の衣冠亦至りてハ
寂し人目と眩耀々
せり其釧環の如き
左右大ハある金剛
石と鏤め其價と算
計ハ二百八十四万
弗小至ると云ふ其

次く旧都の義斯巴
恒仙泥里由土の河
奇なる構への橋を
け。人亦小建つ
福庭園を造築の



民野

他の修飾准を知ら
べし
都下の士民ハ氣象
温和小して文學著
述と好み且詩學ハ

遠く京より油繪の
巧を盡す如くあり。純
あきやん近きあり。見
まらざるならぬ家母
皆是果て見人若く礼

長き者多し故に
比耳西語の近国
小傳へて之を講習
こと猶佛蘭西語の
歐洲に於るが如し
比耳西亞歴世王
○居魯士王
上候乾庇西の子
全國を統一して
四隣を併せ巴比

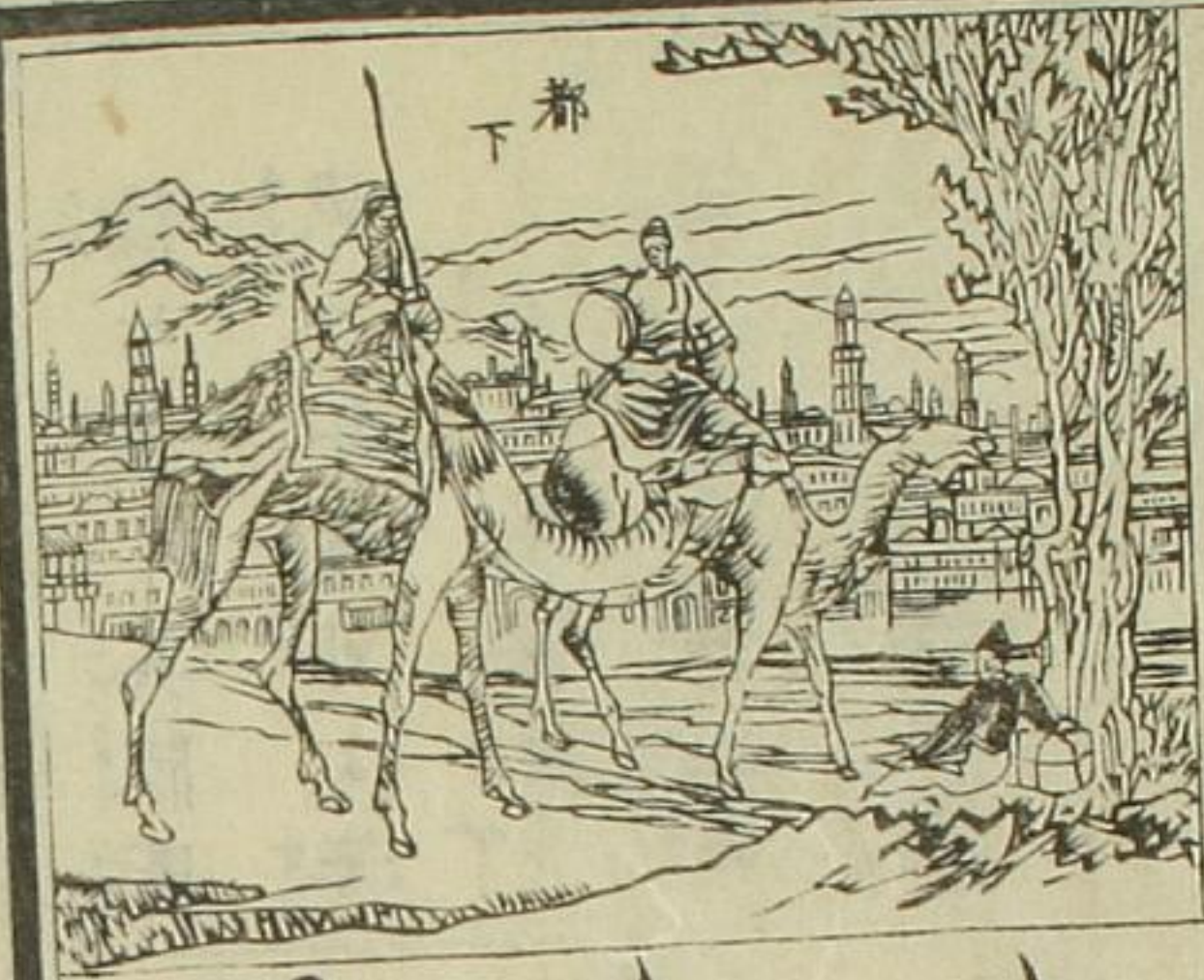
き一代之を經る修不
修理を加ぬ衰亡の
毒りの何時の期をむ
比耳西亞と印度兩
境の間少數部の存を

倫を滅し其版圖
東に印度河に接
し西に黒海地中
海に濱し猶亞非
利加の北部を蚕
食す
○大流士王
居魯士王の親屬
あり全國を二十
州とあり鎮臺と

為す亞加業坦皮路
直坦域内分ち頭領
の支配を更す風俗
帝狼の心して猛く
勇める意欲土身其

七十馬者蹄
 七十馬者蹄

置て守らしむ勢
 ひ盛んあさ小乗
 ドと歐羅巴を併
 吞せんとい大兵



斯坦の無和業の南
 接を一大部。室是烈
 く土瘠く。沙多
 く耕し。能業に頼る
 便な。以。西。伯。く

を將て他太尼里
 と渡り希臘と数
 回會戰軍利あら
 ぎして旋ち
 ○澤耳士王
 父の志を継ぎ大
 軍を發して海陸
 等しく歐羅巴を
 侵し又希臘の為
 小破らきて和を

東の海。の。山。峰。と
 うら。海。身。へ。二。流。の。大。河
 撲。裁。て。未。を。無。拉。の
 湖。小。注。ぐ。む。ら。り。に。そ。れ
 他。の。河。の。流。能。多。く。は。

世界都各
 卷二

講む其後國勢衰
ふるみ及び歴山
王小滅さきて本
土尽く歴山王の
版圖小歸も居魯
士より二百三十
年小して七ふ其
後數百年間争乱
止ま近三百八
年前小至り都魯

所る域も布加利の
都府の豊の土地して
人氏多く隣に能性
來好く平常に用也
る駱駝三千餘貨物



機の属沙馬何美
と祢る者興り全
国を統一して獨
立とあし國勢を
恢復も之を比耳

運送賑々き市場
少人を膏買の勢き
習ひを疎すき徳
帖木兒王の都城に
名跡著き沙曠良

西亜新朝の祖と
 稱を其孫アバス
 一世位に即く小
 及び更よ兵力を
 盛んよ其版圖
 東の印度河より
 西の方地革里河
 小接し盡之と領
 せり然るよ其嗣
 王皆暗弱して國

府浩罕の府城を以て
 莫卧尔を印度の土地
 に昇きたる。朱武留王
 の古蹟とて。如西部の紀
 法は強國の餘風あり

勢振とて邦土分
 裂とあり近來魯
 西亞の為小侵さ
 是現今の形勢よ
 至る
 ○亞加業坦の部内
 の三万七千七百八
 十方里ありて人口
 五百十五万あり往
 時一政府ありし

今ハ程汗と号く
 る酋長の内化よ暴き
 威を振ひ。十四万余に
 部下ありて。騎馬七槍
 の隊を將き。掠心を帯

今現今の分裂は然
 色ども其首たる者
 猶三あり即ち「希
 利」カ「ン」ダ「ル」希「拉」等
 あり氣候暖熱く沙
 漠ありと金山の間
 小ハ豊饒ある土地
 多く就中加布利ハ
 樞要の都府あり又
 人口六万あり又カ

沙漠也。小石踏ふ也
 きてて。原野の中り
 喜留擬須と号する
 土地の人種ハ都魯機
 と暴虐の行ひの



業と祖

野民の圖

ンダル府ハ往時繁
 昌の地あり一カ今
 ハ衰へて盛らば希

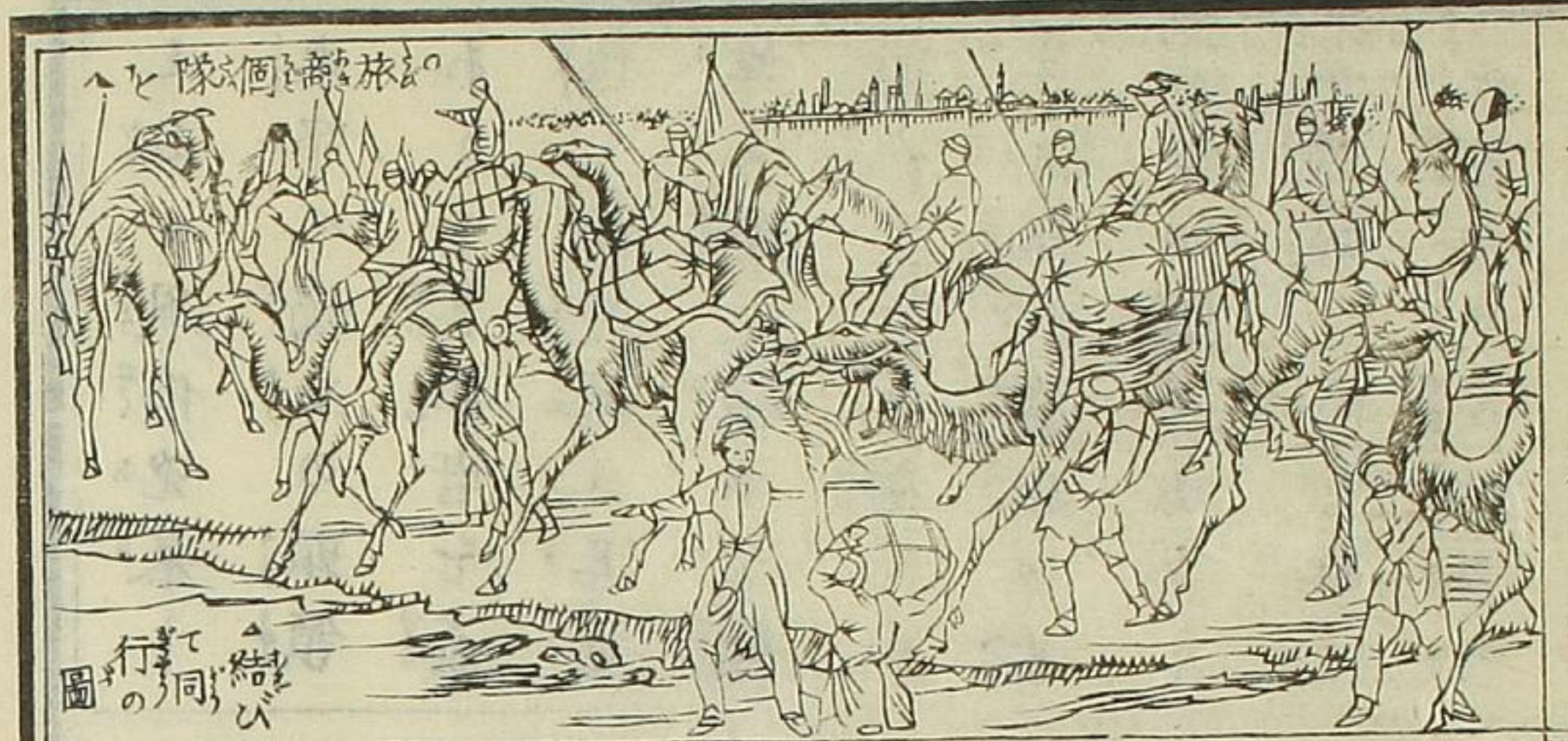
を事として。仁義小
 反く野蕃あり
 亜細亞土耳其其を歐
 亞巴土耳其其を部
 領地として。比耳西亜の

拉府ハ比耳西亜の
境ハ近ク部内西方
第一の貿易場ハ一
テ人口四万五千あ
り
○皮路直坦の部内
ハ二万六千八百方
里ヨリ人口大九
四十万あり其土地
原野と峻峻き慶の

西界して黒海
及び地中海右の海は
突出く南の方ハ亞拉
比亞と亞非理亞海
うら對し境内山岳連

と多く風俗兇暴
東部の獨立の頭領
ありて其都府を基
拉と云此國比耳西
亜と本一國あり後
自立して二國とあ
る又亞加業坦と合
して一國とあり
ガ相睦しからざ
て各その主と立つ

多しとて土肥く
五穀産物不足あり
四部ふからし大列
小亞細亞叙利亞亞爾



養尾亞米所波大迷亞
 も悉く土耳其政府小
 附属せり。全國二百三
 十府。その中大馬士革
 とて名ある都の町續

隊と結ぶの商個往
 來の地小一と貿易
 稍く小盛んかり西
 部の地い野民多一
 ○土耳其斯又獨立
 鞞靴インテンタルテ
 リと號一數箇の小
 国小區分各皆君主
 あり其中の首立者
 五国あり所謂布加

千種百お舗店ふ。
 あり。一。彌南ぐ如。昌い。
 古き史より著れく。
 世界よるるき勝地。
 くれり北の亞喇波。

世界都路

卷二

利加非利斯且浩罕
罷革クンズ一等

○布加利府

地方国の南部あり其府人口七万府中少用ゆる駱駝三千餘頭小及び内地の貿易甚ど多く府内奴隸を賣買するの市場あり且回教

又娘了き大府あり。
抑西洋法を以て倉作
寄依の教祖あり耶
蘇降延い當國の不
利斯底尼の都たり。

盛ん小行とと三百六十の箇の寺院あり

○沙曠良府

往時帖木兒の都せ一慶ふして府内繁盛人口十五万あり其後数度の兵乱を経て漸衰微一今ハ一万を過ぎず

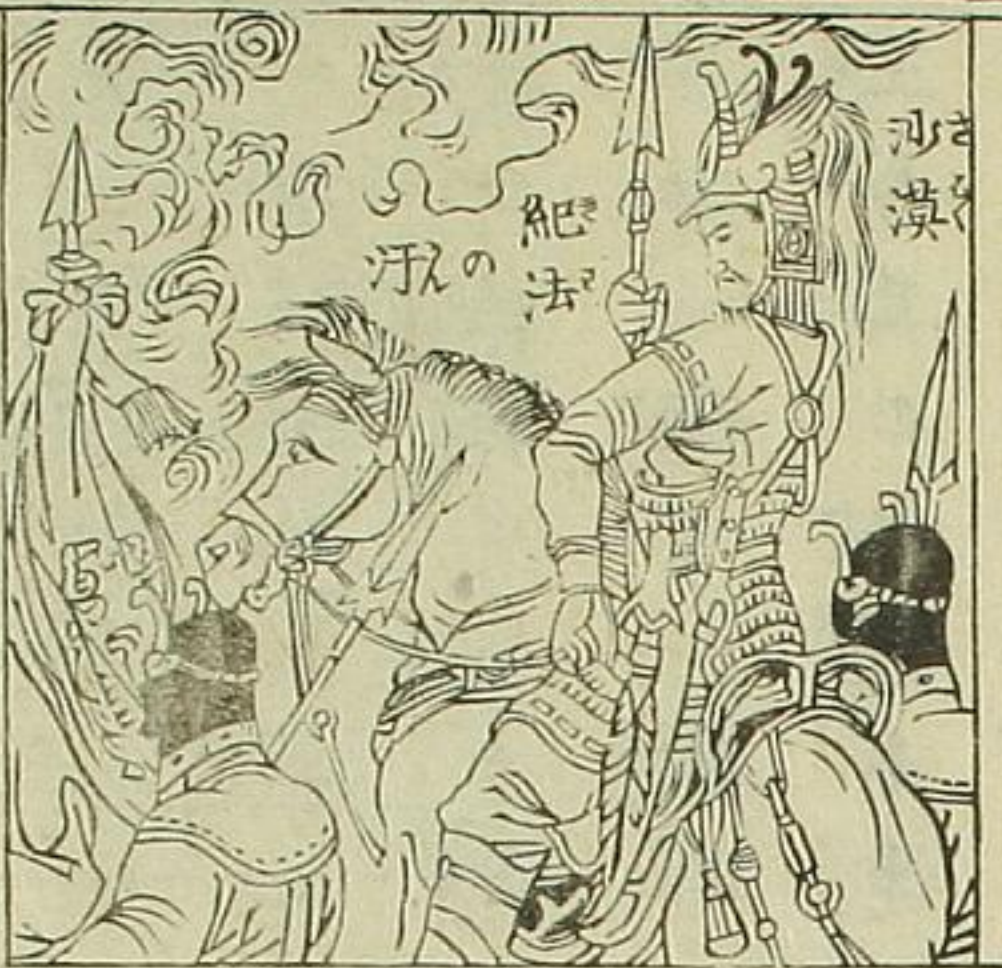
さしよ名高き耶
路撒冷猶太國王の白
都。教千年来愛
革ん。栄枯盛衰地を
智る。耶祖の墳墓

○浩罕府

国内東部貿易第一の場所にして往時莫卧尔国を印度へ開きたるペーブル王の古卿あり西部紀法の地方は昔カルスハの強国此部内小在て武威と專擅ふせり都府

あり。寺院もあり。國
時一般國民の宗子を見
そむ回教の靈場を
宇金銀の飾りきき
めく仕務眼目を驚

も同名小し人口
一万二千あり



○西北亞拉湖の近傍より魯西亞の領地を跨り一般小沙

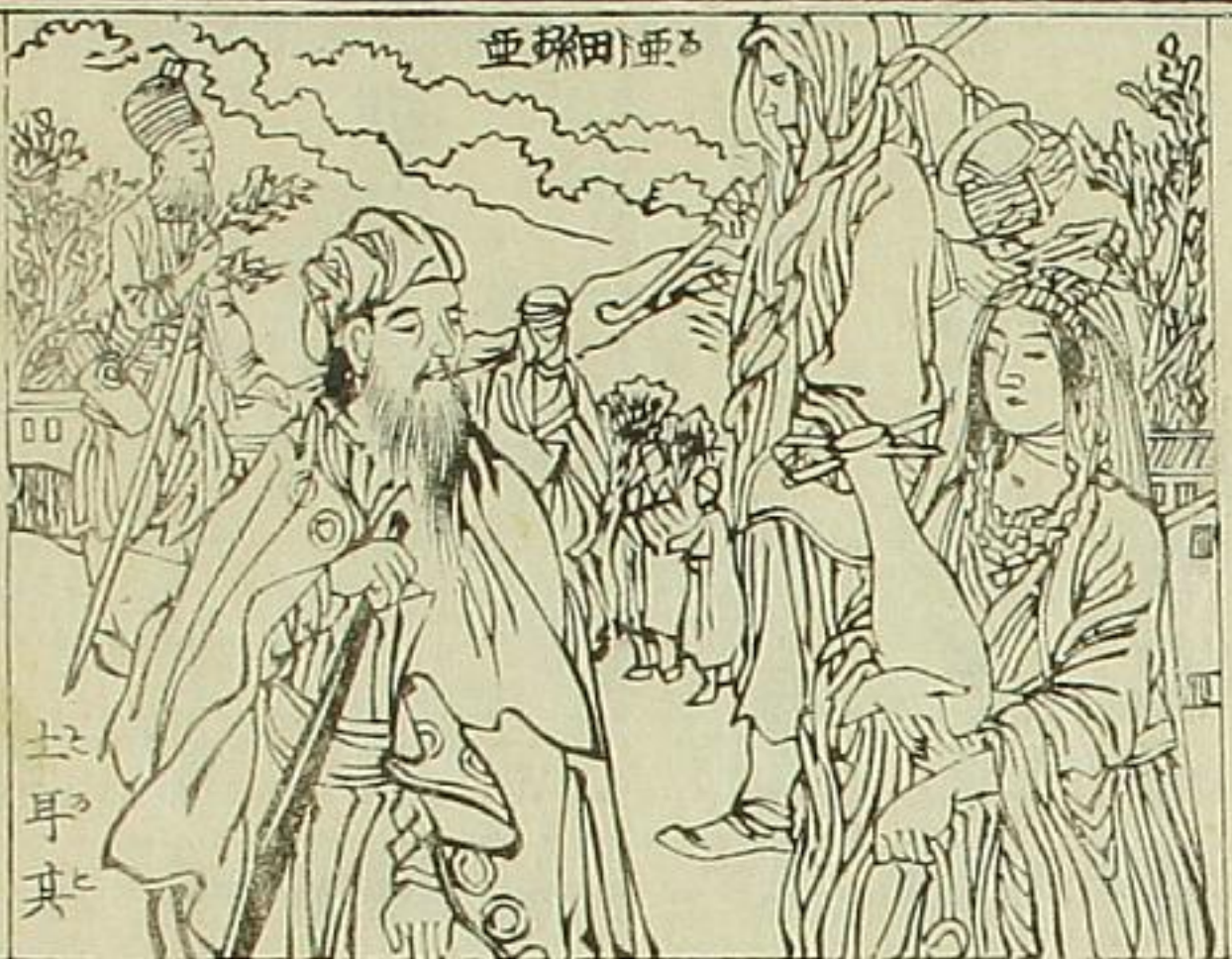
りて針あり。夜
世家の七不思議當
尾微のさきの庭石伯
羅の大銅像巴比倫城
の夢の跡没期耳府

世界地理 卷二

積の原野ありキル
 キハの地方と号け
 各部酋長あり風俗
 暴び盜賊を事とせ
 ○亞細亞土耳其
 洲の西隅より狭
 き海を隔て、歐洲
 土耳其の本国小連
 り南の方亞拉比亞
 小跨りて亞非理加

より對岸地革里斯
 河の傍より堀出さる
 古器遺物今英佛
 の本部ある博物館
 小宛めたり

洲の接し東北の黒
 海に傍て魯西亞と
 界を地方十一万二
 千四百四十方里あり



亞拉比亞國の北の方叙
 利亞よりなるびそは
 東由非刺底河と此
 耳西亞湾南の方あり
 亞拉比亞海西紅の海

世界地理 卷二
 ○卅三

一と人口千六百万
 餘有り皆土耳其政
 府の版圖に属ふ其
 區分たる各地に鎮
 臺を置き許多の候
 伯を委任して之を管
 轄せしむ国内大小
 の府一百三十あり
 其人口土地の廣大
 小比較せば少からし

境にさしよに廣き
 國ありし赤道直下
 の大熱地沙漠田地
 ありし海の岸を
 耕他をいふは乃

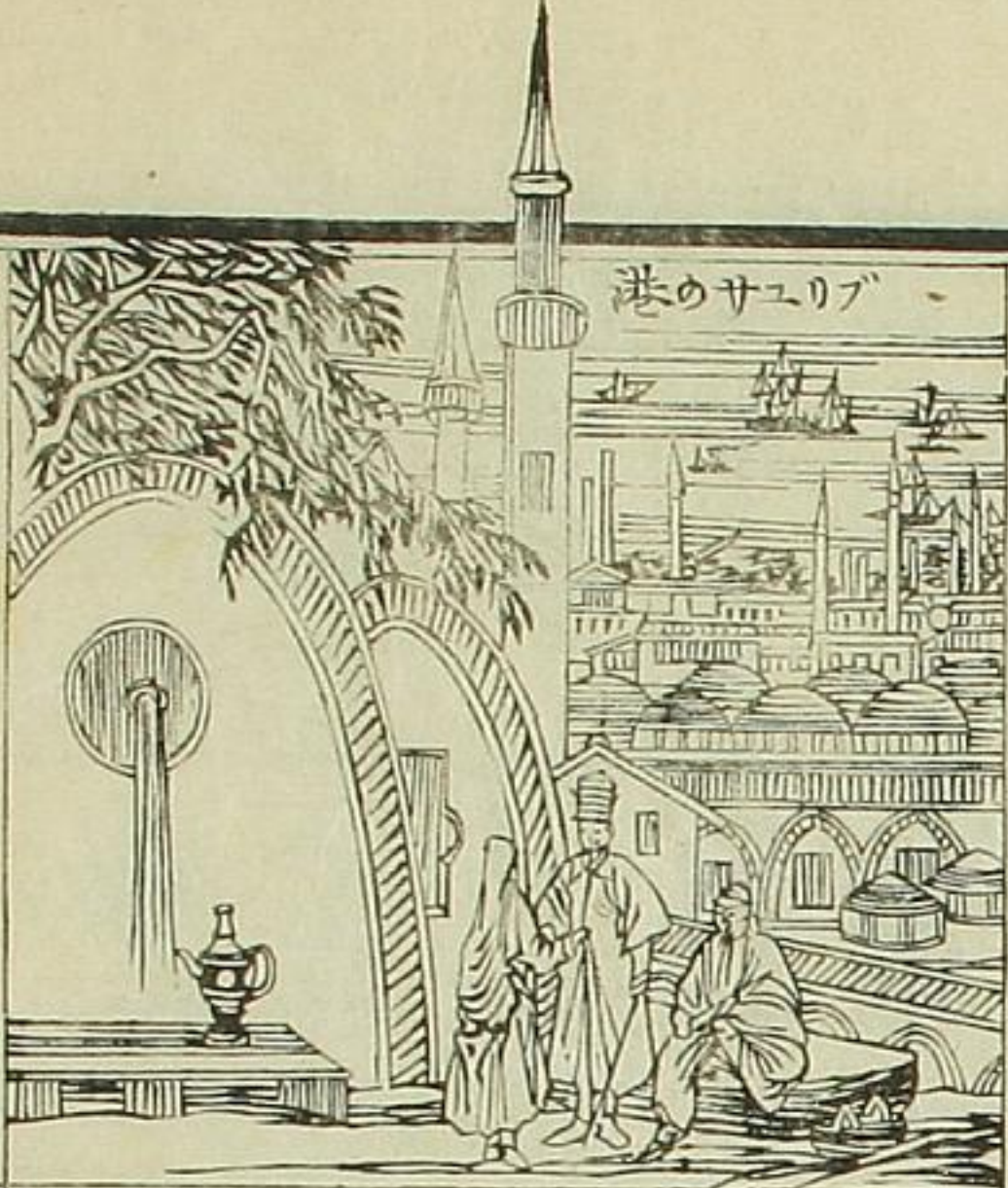
とせば一其中士麥
 拿大馬士革の西府
 の如き人口十萬
 以上過ぐと雖も其他
 五萬以上及ぶ者九
 ケ所二万に至る者
 二十六ヶ所は過ぎ
 ぬ教法に一般に回
 教を奉じと雖も人
 種の區別よりて

のありし果し
 志ぬ沙原の旅
 者を隊を駱駝
 小舟を路を磁
 石針を的とす

七世... 卷二

耶蘇猶太及び種々の異教を奉むる者有り此国上古より著高き地方より三千年前より世に知られたる王国ありしが古來數々の兵亂を経て爾後四百四五十年前より土手其より併合され

早を指へく方角を。定る業を大澤を航る例に醫婦たるも。土地を大賊區別して之を黒德斯之を



全国其版圖に屬せり其中叙利亞及び小亞細亞の兩部は往時埃及の副王に屬せしが三十四年

也門之を阿曼之を納熟獸類多しある中に馬々世界の二物とすの評判の故に里外より之を著

世界地圖

卷二

〇廿五

前土耳其其屬也
 ○小亞細亞マイネア
 の黒海と地中海と
 の間にある地方は
 して亞那多利亞と
 る名づく都府士麥
 拿の亞細亞土耳其
 第一の府よして質
 勢繁盛の港あり其
 他アイヂレ府ク

き。亞丁の紅海咽喉の
 碇泊場もよく英領小
 属も好花の港あり。
 阿曼の都府也本斯
 甲印度も對して東

タリ「ブリュッセル」府
 シノ「ピ」の港あり
 共小繁花の地あり
 ○叙利亞の地方は
 地中海の濱辺より
 亞拉比亞小跨り小
 亞細亞と埃及との
 間にある南北に長
 き土地と云ふ海岸
 の地方と不利斯底

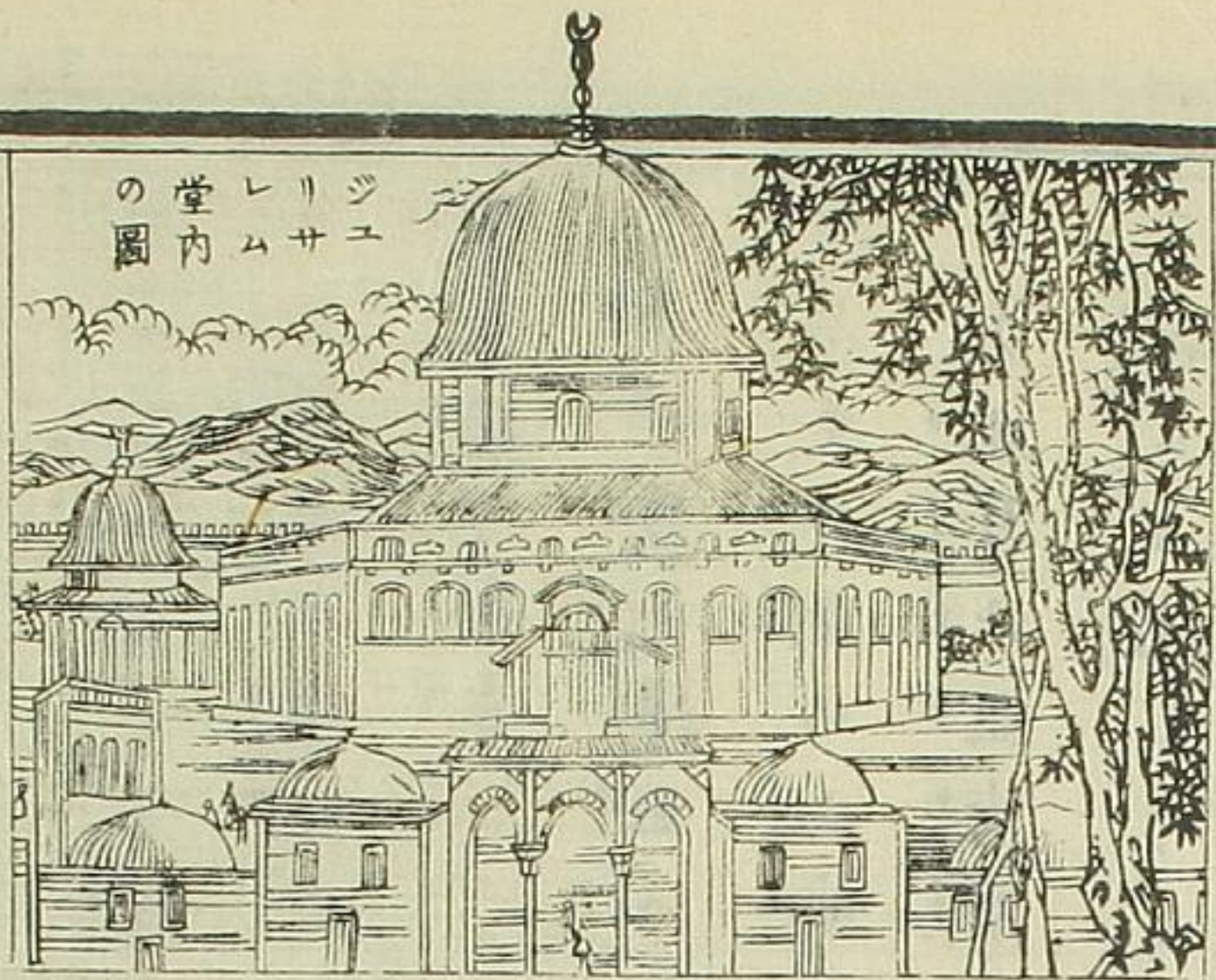
南に海は存在して
 地球中極熱帯乃
 第一地岩石四方を
 うち圍む樹木はさ
 らりあつたよきそ秋

尼と云ふ此地迦南
又ハ神国と號し猶
太以色列等の古名
あり土人種々の教
法と講ぶるものあ
り

○猶太教
○回教
○耶穌教

等の諸宗あり

立江の空権杖下地
互一此寒温儀され
此府小仇名一と俚俗
地獄と稱ととも也内部
の地方納熟蒸野積



○亞爾美尼亞ハ魯
西亞の甲告俗地方
小接して山脈連り

原山嶽の間小草木
生首つ土地ハ亞拉比
亞古來より傳てく
風俗の姿ハ理也
奴の府下の人今

東南の方比耳西亞
 小接在るの地方ハ
 更小高山多し其都
 府を葉西倫と云人
 口三萬四千内地の
 貿易盛んあり
 ○米所波大逆亞ハ
 亞尔美尼亞の山地
 より比耳比亞海灣
 又達する地あり

崇まじる回教の基
 を宗く聖地
 舊路を山まれ
 支那海及び印
 度

上古種々の邦国あ
 りて世界繁盛の地
 方ありと云ふ
 因て云此地小ニ
 ツの大河あり一
 を由非刺底と云
 ひ一と地革里斯
 と云ふ共小東南
 小流を終小相合
 して一ツ小あり

海澳大利亞中間に
 数も知れぬ島嶼
 を總て稱之と東印
 度諸島と呼つ又是
 を巫來諸島と号す

比耳西亞灣に注ぐ太古人民初めて繁殖たる此河辺ありと云ふ其後大洪水ありて人民多くなりて滅て唯諾威の親屬絶え免る事を得て再び人種蕃殖て現今ふあり

この中なる首嶋大略和名系千附居しと今く能地と稱者総計九万八千と三百八十方里

来りーと云ふ蓋し大洪水の有い大略四千二百年前より一ノ諾の親屬神の告みより前より大洪水のありと知り舟を造り貨財を載て則ち今の亜細亞の山地

少く人口二千万人小僅是は... 土地亦道に位... 候矣大熱子木の花実ハ四時小絶也

七 九



らに。往來も支那の
海。色。ま。呂。宋。数。百
乃。原。名。を。合。せ。名
づ。け。し。り。は。納。也。
稱。す。之。味。の。西。班

小止中まうと云
傳ふ

古跡

○巴比倫城

大元四千年前の

遺跡と存せり

○尼々微城

三千八百七十餘

年前の古都は

て現今は其近辺

世界者路

卷二

〇四十

牙。第。二。世。王。の。名。を
其。名。を。其。領。分。の
故。あり。都。府。の。馬
尼。刺。の。西。の。方。岸。を
放。き。て。獲。得。諸。島。

ある土中より種々の古物を掘り出す

○太陽廟

太古尼々微の城中あり今其瓦礫而已と存せり

○巴比倫金像

僅小築石の古跡と存せり

金像



○亜拉比亞の北叙利亞の連り東の由非刺底河及び比耳西亞灣の境一南の亜拉比亞海西の紅

世界地理

卷二

〇四十一

瓜哇と諸島の先

人口多し土地

阿蘭陀領の

一箇として首府を

名づけく伯帶底亞

鎮甚衛府諸友局

諸院学校その外

市街商社鋪店を

新を並置してある

あり十餘里にして中府

海小境ひたる大か
る半嶋国ありと雖
全く赤道の熱地小
しと沙漠連り耕作
まべきの地あり大
略歐羅巴洲四分の
一ありと雖人口六
百万小過を皆亞拉
比亞人ふしと一般
小回教を奉む又猶

あり。勃意天率留
俱も錯座の無事
を慰む下屋及の季
子緑の葉ををまき子。
百花を常に輝燦と。

太教を奉むる者多
し海岸の地方小の
間々豊饒の地あり
且繁盛の都府数多
ありと雖も其内地
の沙原むりある
故此地を旅行する
者駱駝を駕む隊と
結び且道路の標的
小磁石の針をふり

緋ぬ眺め花面白き。
官道四達馬車肩
輿り。性来自在の
三寶瓏士里莫萬
丹井裏汶能者府

ふり星を指へる方
 角を定めて行くと
 大洋を航るが如く
 と云り土地の區別
 種々の名称あり
 ○黒德斯土耳其
 國の西部紅海の
 濱辺と云ふ
 ○也門 酋長
 西南の隅紅海の

香港貿易の盛りを
 競ふ 澳門 峇株 朥 朥 朥
 少ん 巫來由の半島
 さし 向ひ 多る 大島
 や人の こと 後 是 意 派 の

入口の地方を云
 ○阿曼 頭領
 東南の地方を云
 ○納熟 酋長
 中央の内地を云
 ○ハドラモート
 南部の海岸を云
 ○西奈山 九百丈余
 蘇士と「アカバ」の
 海灣の中間に有

空のせきくうをを戦ひよ。
 ぬく 房 小 和 系 系 領 口
 喘 茫 古 魚 已 隣 傍
 その他 他 の 諸 府 有 ん 結
 産 を 副 々 漸 々 亦



張る其内お眠り坐
處お移り住帳幕を
めせ水草を逐て他
民の平常居処を定
亜拉比亞内地に住

獨立の土人も交る嘗
甲嶼支那と印度の
海洋は越く船の帆後
あり。風陸のおある波女
君の世も亦双の太の

食せり人氣あしく
盜賊と為者多し斯
る廣大ある沙原中
生活もる人民の時
用缺く可からざる
物の駱駝おしと一
切の物尽く此獸お
駕しと水と草との
ある地を求めて四
方お住居と轉むと

地理書の中お算ふ
きと支人何れ暴に
て。并化の途も裸蠻
西の岸より東へ和
茶の産るその化も獨

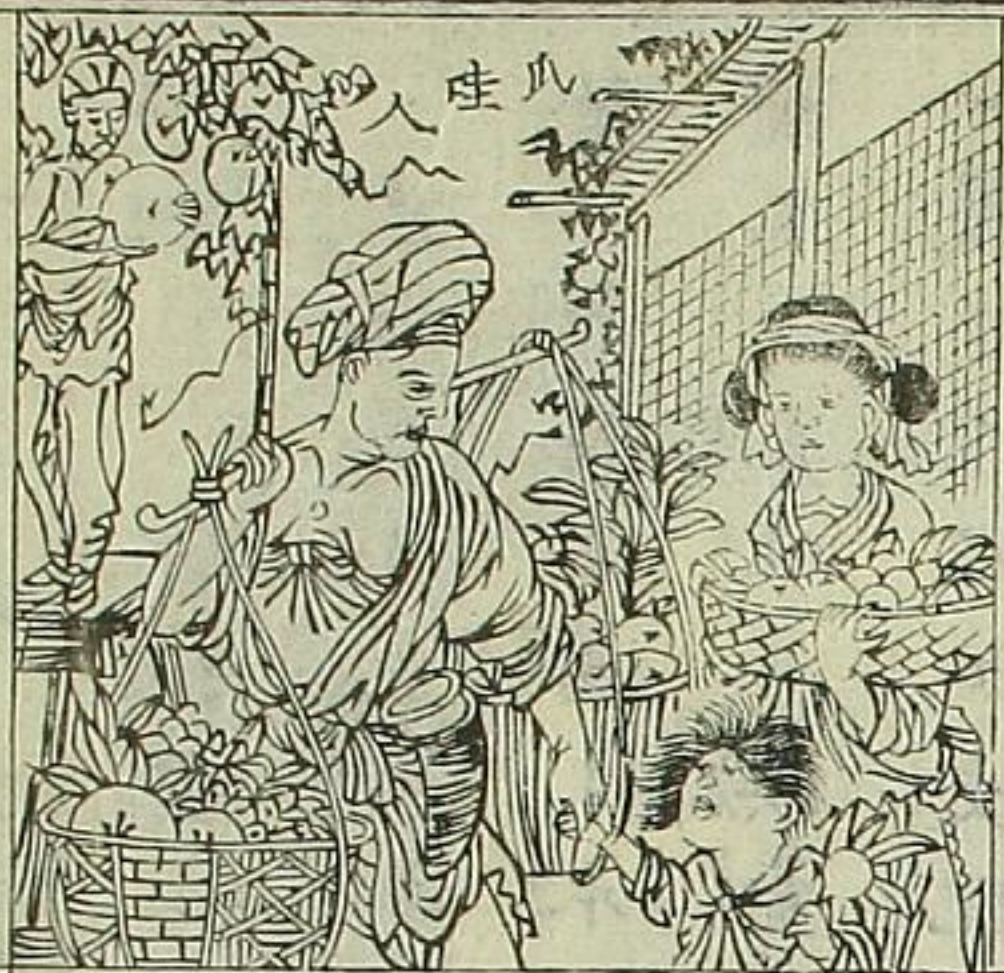
云其他此地の馬の
世界無双の馬の
有名あり

○此國の回教基源
の地は一千二百
餘年前開祖摩哈麥
黑德斯の首府麥加
の地は生と麥地拿
の地は終りより
回教の門徒の靈場

立ち候葉の支記を
見る者あり内地の
重山つぎ深き林の
うち残り猛獸毒蛇の
巢窟少て人の通ぬ心

の第一として巡拜
する者必此地小
來り

○東印度諸島の
緊赤道下小位



の土地の西南西より
大府の管轄の八雜
里たる英葉土海峡通
し西里伯了路古
諸小島小陸他諸島池

炎熱あり草木繁茂
 一産物多し大略和
 蘭の管轄の属し本
 國より爪哇の鎮臺
 と置きて之を支配
 せり然も其北部
 の諸島呂宋の如き
 西班牙の所領の属
 し又葡萄牙領或は
 土候の領地もあり

百餘さしも高嶺に
 頂ふの峰りて遠くあう
 むま六海に面り敷
 星の影をやとまの
 如くあるま

010190534087

